

防災対策

腎センター編

1 腎センターの概要

腎センターは、病院の外来棟の東の2階部分、手術室の隣に位置し、38床を有しています。

職員数は、7月1日現在、医師3名、看護師等が24名、パートが3名、臨床工学技士が5名。

現在、およそ120名の慢性腎不全患者様が通院されており、日曜日を除く毎日、午前と午後に予定を組み、透析を行っています。また、月・水・金曜日には夜間の透析も行っています。

2 防災対策について

腎センターに通院されている患者様にとって、大地震等の災害により病院が被災し、透析が何日もできなくなることは、命に関わる切実な問題となります。

しかし大規模災害時には、誰もが被

9月1日は「防災の日」です。

私たちの住む静岡県は、二十年以上も前から

「東海地震」発生の可能性が指摘されています。

掛川市も震源域のなかに含まれ、多くの被害が予想されています。

その被害を最小限に食い止めるため、当院では、

定期的に防災訓練を行うなど、職員のみならず、

患者様が防災時に正しく自らの身を守る事ができるよう、

防災意識を高めています。

今回は、腎センターの常金師長から、腎センターで行われている防災対策について、お話を伺いました。



防災訓練

1 防災訓練

一年間を通じて、腎センターに通院される全員の患者様を対象に、フロアごとに一回五、十名で、透析中に東海地震が発生したと想定し、防災訓練をしています。

患者様とスタッフが一緒に訓練を行い、役割分担を明らかにし、発災後、混乱することなくスムーズに対応する

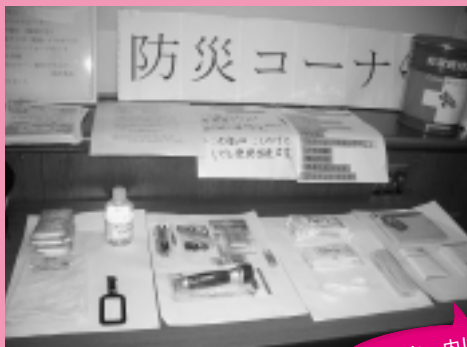


避難訓練

ための訓練です。

2 防災パンフレット作成

患者様に、災害時にはどのように対応すればよいかを説明したパンフレットを作成しています。災害時の腎センター運営や、被災し通院できない患者様のための水分管理、薬の管理などの自己管理法も取り上げています。



腎センター内に
防災コーナー設置

